

SDGsのメガネを通して「いまの阿南」を見る。

aman SDGS glasses

阿南SDGsグラスイブ

発行 阿南市・大正大学

阿南は海川山が近くて大きいと言う平瀬さん。
R3年4月、アクティビティでまちおこしをするため、阿南市地域おこし協力隊に着任。川SUPから始め、今では川と山のトレッキングやパックラフトの事業化を進めている。特に、体験した阿南の人が、自分の育った町の自然に感動して楽しんでくれることに「やりがいがある」とのこと。

1人でも意識が変わる

きっかけに

SUPインストラクター 平瀬紗衣



平瀬 紗衣

高校はボート部で、昨年、SUPインストラクター資格を取得。夢は古民家をリノベーションしたゲストハウスの経営。



自然の中に入ると、いつも見ている景色がガラッと変わるようだ。中に入れば、海川山の大きさが感じられるに違いない。

毎月1回、第2日曜日、参加者を募集しSUPをしながらごみ拾い

をする活動をしている。活動に設定している参加費に、平瀬さんの思いが込められている。「小さくてもいいから、続けていきたい。続けるためには、どうしても必要な経費をみなさんに負担してもらおうほうが良いと考えました。」とのこと。「やっていることは小さいけれど、海に流れるゴミが少しでも減るし、1人でも意識が変わるといいな。」小さいけれど、という言葉の中に重みがある。SDGsは一人一人が行動を起すことが重要とされている。浜の浦緑地では、活動に参加する仲間が少しずつ、確実に増えている。

SDGs Glasses とは?



SDGs Glasses とは、持続可能な地域づくりのために活動する姿が見える魔法のメガネです。

SDGs では「誰一人取り残さない」を合言葉に17のゴールがあります。1つのゴールを達成するためには他のゴールとの「つながり」が大切で、一人一人が自分事にとらえ、立場や組織、領域を超える取組が必要なのです。

私たちの暮らしは世界と密接につながっています。市民の皆さんがSDGsを身近に取り入れて実践していくことを見つめ直すきっかけとして、このSDGs Glasses が役に立ちますように。



SDGsとは

Sustainable Development Goals
(持続可能な開発目標) の略。

2015年、国連で採択された、「2030アジェンダ」という文書に含まれる目標を差します。文書の主題は「我々の世界を変革する」となっており、最大のコンセプトは「変革」。今のままでは「つづかない世界」を「つづく世界」に「変革」するための行動目標です。SDGsには2030年を期限として17のゴールと169のターゲット、232の指標によって、社会・経済・環境のあらゆる課題をとりまとめられています。実現にあたっては「誰一人取り残さない」ことがうたわれています。SDGsの17目標を3つの階層から成り、それらが密接にかかわっていることを示す図があります(SDGsウエディングケーキモデル)。この図は、「経済」と「社会」は「環境」なくしては成り立たないことを示しています。



SDGsにおける17の目標と環境、経済、社会との関係性 (Stockholm Resilience Centreより)

阿南市 SDGsの取組

阿南市ではSDGsを地方創生の原動力として各施策で推進しています。ふるさと未来課では、阿南の豊かな海を体感しながら「阿南ファン(ESCA)」を増やすSUPタウンプロジェクトを展開し、環境活動を実践するESPA(地元事業者)の返礼品を活用した阿南市版ふるさと納税も全国から共感を呼んでいます。今後はSDGsを理念としたビジネスや活動を支援し、地域経済が循環するシステム構築を目指します。次世代へつなぐ持続的なまちづくりの実現に向けて、市民の皆さんと共にSDGsを推進してまいります。





遊ぶ！学ぶ！ 淡島無人島体験

名称：小学生わくわく企画
地域の魅力発見！無人島体験ツアー
実施日：R3年7月24日、R3年9月4日
主催：グランフィットネス阿南観光協会
協力：サステナブル阿南、福村漁業協同組合、阿南高専大田研究室



淡島は、海水浴場として愛される砂浜と、沖合いには釣りのメッカとして知られる福村磯がある。1日でどちらの海も楽しんでしまおう！という子供向けの体験プログラムが実施された。午前はビーチクリーンとSUP体験で、美しい砂浜と海のレジャーを楽しむ。午後は漁船クルーズで荒々しい岩肌の島を眺めながら無人島に上陸。島では、砂浜とは違う磯遊びを体験、生きもの観察を通して、海と陸のつながりと生きもの関係性を知る。これだけ盛沢山の体験をしても、子供達はまだまだ遊びたい！というほどの夢中ぶり。この素晴らしい海は世界につながっており、その世界がいま危機に直面していること、解決への道筋を示すSDGsを学ぶことも、体験の大事なしくりとなった。これだけの体験プログラムが実施できたのは、いろいろな分野を超えた連携があったからこそ。SDGsの実現は、こうした連携を重ねることから始まるかもしれない。



阿南にはSDGsの眼鏡を通すと見えてくる
たくさんの知られざる頑張っている人たちが居ます。



名称：SDGsカフェ
実施日：R3年11月20日・21日
主催：阿南市、Outdoor&Tent club、阿南工業高等専門学校、大正大学

SDGsカフェ

芝生にテント、デッキ、方、防災知識を教える
チェアにテーブルと、くれるワークショップ
青空に映えるSDGsカがあった。SDGsカフェ
フエがまちマルシェでの飲み物は地元新野産
開店した。デッキチェアのはちみつ紅茶、販売
アに座ると、「リユースするのは高校生ボラン
ク the SDGs」とテーマ、店頭ではSDGs
する、リユースを通してアンケートが実施さ
たアウトドアの楽しみれた。

【SDGs認知度アンケート結果(一部)】
SDGsという言葉を知っていますか？

知っている	30%
少し知っている	51%
知らない	1%
無回答	18%

ごっついあなんフェア SDGs×生物多様性

阿南市役所に開設された図書館で、SDGs関連の本の紹介と合わせ、生物多様性あなん戦略のイラスト原画展が開催された。原画展ではきめ細やかな手書きのイラストが30点以上展示され、多くの来訪者を楽しませた。展示期間中には、「あなんの生きものを描こう！」と段ボールお絵かきワークショップが実施され、子供達によるあざやかな生きもの屏風絵が完成した。



名称：ごっついあなんフェア
実施期間：R3年12月15日～26日
ワークショップ：12月18日
主催：阿南市、阿南市教育委員会、阿南工業高等専門学校、大正大学



おゆずりタウンで 子ども服のリユースを

佐川 寿栄美
阿南ファミリーサポートセンター所長

子供の服はまったなし、困っているお母さんの手助けになるよう、子ども服のリユースコーナーを事務所内に常設。さらに、綿の古布を毛糸のように作り直し、編むことで座布団やバッグなど新しいものへのアップサイクルにも取り組んでいる。「お母さんの笑顔づくりが家庭の笑顔につながります」とファミサポでは、基金の設置や多くの支援策の情報提供など、困りごとの解決手段がきめ細やかに準備されている。



無人島「野々島」をフィールドに持つYMCA阿南国際海洋センターでは、その自然豊かな海洋環境を活用した自然体験活動が50年以上に渡り提供されている。菅田さんは、キャンプを通じてSDGsを「自分ごと」に落とし込む実践の場とする「SDGsキャンプ」をデザインし、提供している。無人島での生活や海岸漂着ゴミを目的とした活動など、自ら課題を見出し、解決策を考え行動することが、SDGsを実践できる人材育成になると考えている。



海洋教育とSDGsのキャンプ

菅田 斉
YMCA阿南国際海洋センター所長

自分にできること、 人と人をつなぐこと

片山 美幸
阿南市富岡町在住
シルバー人材センター所属

出荷できない野菜と、野菜がほしい家庭とを児童クラブを通してつなぐことができたという。そこでは子供達が土のついた野菜に触れる、親同士が美味しい野菜のレシピで会話するなど、廃棄野菜の解消とともに、新たな楽しみ、つながりが創出されている。

未来に責任を 果たせる事業を

北條 誠一
株式会社一生代表
ESPA会員

サニーズファームのオーナーでもある北條さんは、古から続く農業こそSDGsに合うと有機農業を実践、普及する事業家だ。フードロス削減のため、廃棄対象となる生産物に竹パウダーを加え肥料化し、循環利用している。「20年先の未来に向けてだれかがしないといけない」という思いの背景に、その責任を果たすための大きなビジョンが描かれている。

食で温かい地域の未来創造 エシカルライフを地方から

紙レインのお弁当箱に
地産地消の食材がぎっしりと詰め込まれている

食材の作り手のこだわりと共に共感し、それを伝えるべく、調理や加工を施す。食材、加工、流通と、食を支える多くの人の思いを伝えた、この思いこそ、地域の未来をつくるふるさと愛につながるという。おいしさの向こうには理由がぎっしりあることを木元さんは教えてくれる。

木元 靖博
有限会社ウ・ワーク
ESPA会員